

熊野古道

みちくさ記

6



大鳥大社と鳳本通商店街 (堺市西区)

和泉国で街道は太く 絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

JR鳳駅(堺市西区)後に立つ楠の木々は新で下車。和泉国の一の緑に萌えて千種の森宮となつている大鳥大社を訪ねた。

者は切れ目がない。大看板に引きつけられ鳥大社は大鳥連の祖だ。神を祭つたのが始まりだが、日本武尊の白鳥飛来伝説から千種の森の社となり、参詣者も広域化した。鳥居の傍らは大きな献燈。基が寄進されており「木綿商之仲」と刻まれてい

うちには神通力を失って狐の正体を現してしまつた妻は「恋しくは訪ねてみよ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉」の歌を残して故郷の信太の森へ帰っていく。童子丸と保名が信太の森を訪ねるや祠が多く寄進されていた。人の願いは今も昔も変わらない。午後5時の時報が鳴ると、お稲荷さんに地元の人々が集まり、合掌する姿が見られた。大阪市内など摂津国に残つた熊野街道はわずかで、細い破線のようにだが、泉州と和泉国に入ると太い線につながつており、地域の動脈になっていることに救われる思いがした。

神社、商店街、地域に根付き

た。木綿産地だった泉州らしいスポンサーだ。

ユニティーと感じた。部屋の中で昼食後の勉強会を行っていたケア

太の森に家名再興の祈願を重ねていた。ある日、保名はこの森で狩人に追われた白狐を助けた。その時保名は手に傷を受けてしまつた。その数日後、白狐

童子丸は、後に日本随一の陰陽師・安倍晴明となり、冷泉天皇など3帝に仕えた。晴明父子が住んだ地が阿

大鳥大社から熊野街道は駅前鳳本通商店街につながる。清潔な霧囲気に誘われて散策すると、現代的なショップ、レトロな店舗が並び、心地よいリズムを感じた。間もなく、ちぐさのもり「コミュニティサロン」の立て

「きめ細かな企画だね」と感想を述べ、人と人のふれあいが介護には必要と学ばされた。街道がコミュニティ

5歳の時、眠っている

この森は御命婦神白

(次回は5月30日掲載)

雲仰ぐ千種の森の青
嵐 秦華